

【資料 5】

燃やすごみに含まれる資源の賦存量・食品ロス量推計

賦存量とは・・・

辞書では【ある資源について、理論的に導き出された総量。資源を利用するにあたっての制約などは考慮に入れないため一般にその資源の利用可能量を上回ることになる。】と書かれています。

今回の推計では、燃やすごみに含まれているごみの内、「資源」になるものや「食品ロス」にあたるものを理論的（計算で）に導き出すことにより、彦根市の燃やすごみにどの程度の削減または資源化余地があるかを検討します。

○賦存量の推計方法

・家庭系燃やすごみ

本年度、現在までに2回実施した家庭系燃やすごみの詳細分析調査の結果（以下の表参照）を、平成28年度家庭系燃やすごみの排出量に乗じて算出しました。

分類項目	重量(kg)	割合(%)
厨芥類	46.99	31.5
調理くず	23.54	50.1
食品外の生ごみ	1.39	3.0
過剰に除去した可食部分	1.98	4.2
食べ残し	10.61	22.6
手つかず食品	6.17	13.1
手つかず食品（期限切れ）	3.3	7.0
厨芥類 小計	46.99	100
新聞紙	7.9	5.3
雑誌	4.22	2.8
紙パック	1.21	0.8
ダンボール	0.79	0.5
雑紙類	10.09	6.8
布類	8.34	5.6
木・竹・藁類	14.3	9.6
ビニール、プラスチック類	14.66	9.8
不燃物類	0.83	0.6
リサイクル禁忌品	4.24	2.8
その他	35.62	23.9
合計	149.19	100

食品ロスにあたる部分
厨芥類の内 46.9%

リサイクルできる紙類
にあたる部分
燃やすごみの内 16.2%

リサイクルできる布類
にあたる部分

リサイクルできる草木
等にあたる部分

※平成29年度実施家庭系燃やすごみ組成分析調査の結果より
(6/30 および 8/29 実施結果の合算)

【資料 5】

・事業系燃やすごみ

毎年清掃センターで実施している、発熱量等の確認を目的としたごみの組成調査の結果（以下の表参照）を平成 28 年度事業系燃やすごみの排出量に乗じて算出しました。

	割合(%)	
厨芥類	54.0	厨芥類の内、食品ロスに当たる部分については、データがないことから、家庭系燃やすごみの詳細分析調査を準用し、厨芥類の内 46.9%を食品ロスに当たる部分とする。
紙・布類	23.8	
ビニール類	15.7	リサイクルできる紙類にあたる部分であるが家庭系燃やすごみの詳細分析調査より紙類の内 15.0%は禁忌品にあたると思われることから、その分を除いた値とする。
木・竹・わら類	5.5	
不燃物類	0.3	リサイクルできる草木等にあたる部分
その他	0.7	

※清掃センターの実施するごみ組成分析の結果より
（平成 28 年度実施分 5 回の平均値）

○賦存量の推計（平成 28 年度実績より）

・家庭系燃やすごみに含まれる資源の賦存量・食品ロス量

▶食品ロス量

平成 28 年度家庭系燃やすごみの排出量 19,954 トン

家庭系燃やすごみに占める生ごみの割合 31.5%

生ごみに占める食品ロスの割合 46.9%

$$(19,954 \text{ トン} \times 31.5\%) \times 46.9\% = \underline{2,948 \text{ トン}}$$

食品ロス量の推計値 2,948 トン

▶紙類の賦存量

平成 28 年度家庭系燃やすごみの排出量 19,954 トン

家庭系燃やすごみに占める新聞紙の割合 5.3%

$$19,954 \text{ トン} \times 5.3\% = \underline{1,058 \text{ トン}}$$

家庭系燃やすごみに占める雑誌の割合 2.8%

$$19,954 \text{ トン} \times 2.8\% = \underline{559 \text{ トン}}$$

家庭系燃やすごみに占める紙パックの割合 0.8%

$$19,954 \text{ トン} \times 0.8\% = \underline{160 \text{ トン}}$$

家庭系燃やすごみに占めるダンボールの割合 0.5%

$$19,954 \text{ トン} \times 0.5\% = \underline{100 \text{ トン}}$$

【資料 5】

家庭系燃やすごみに占める雑紙類の割合 6.8%

$$19,954 \text{ トン} \times 6.8\% = \underline{1,357 \text{ トン}}$$

紙類の推計値 3,234 トン

▶ 布類の賦存量

平成 28 年度家庭系燃やすごみの排出量 19,954 トン

家庭系燃やすごみに占める布類の割合 5.6%

$$19,954 \text{ トン} \times 5.6\% = \underline{1,117 \text{ トン}}$$

布類の推計値 1,117 トン

▶ 草木の賦存量

平成 28 年度家庭系燃やすごみの排出量 19,954 トン

家庭系燃やすごみに占める布類の割合 9.6%

$$19,954 \text{ トン} \times 9.6\% = \underline{1,916 \text{ トン}}$$

・ 事業系燃やすごみに含まれる資源の賦存量・食品ロス量

▶ 食品ロス量

平成 28 年度事業系燃やすごみの排出量 8,836 トン

事業系燃やすごみに占める生ごみの割合 54.0%

生ごみに占める食品ロスの割合 46.9%

$$(8,836 \text{ トン} \times 54.0\%) \times 46.9\% = \underline{2,238 \text{ トン}}$$

食品ロス量の推計値 2,238 トン

▶ 紙・布類の賦存量

平成 28 年度事業系燃やすごみの排出量 8,836 トン

家庭系燃やすごみに占める紙・布類の割合 23.8%

$$8,836 \text{ トン} \times 23.8\% = \underline{2,103 \text{ トン}}$$

紙類の内禁忌品の割合 15.0%

$$2,103 \text{ トン} \times 85.0\% = \underline{1,788 \text{ トン}}$$

紙・布類の推計値 1,788 トン

▶ 草木の賦存量

平成 28 年度事業系燃やすごみの排出量 8,836 トン

家庭系燃やすごみに占める草木等の割合 5.5%

$$8,836 \text{ トン} \times 5.5\% = \underline{486 \text{ トン}}$$

草木量の推計値 486 トン